菊陽人りさーち



寒空に低く小さく羽ばたきて過る影あり紅き影なり

厳寒の氷はりたる鉢底にめだかはじっと身じろぎもせず

優樹さん 中两

(9歳・新町)

- ●趣味 サッカー
- ●特技 水泳
- ●将来の夢 警察官
- ◆やってみたいこと 海で泳ぎたい
- ●お友達へ これからも一緒に遊ぼうね

[菊陽のおすすめスポット]

鼻ぐり井手 (昔から残っているから)

菊陽人りさーちの掲載を希望する人は氏名、年齢、住 所、連絡先(昼間)をお知らせください。掲載対象は、小 学生以上で菊陽町に住んでいる人です。掲載が決まりま したら、ご連絡します。

悠さん 古荘

(9歳・入道水)

- ●好きなこと 算数の勉強
- ●特技 二重飛び
- ●将来の夢 横綱か学校の先生
- ◆やってみたいこと テレビをつくる
- ●お友達へ 大人になっても友達でいてね

[菊陽のおすすめスポット]

ふれあいの森公園 (季節ごとに植物が増えるから)



季詠み

つ来し方思ふ老の春

東風や杉の香りを運び来る

菊

句

会

■申し込み・問い合わせ 〒869-1192 (住所不要) 菊陽町役場総合政策課 ☎(232)2112 sogoseisaku@town.kikuyo.lg.jp

女子会に心弾みぬ四温晴れ

吉田

さの寒の風

講堂の罅しみじみと卒業歌

突風に倒れしま、の黄水仙

福田

会

花冷の老も癒され

ハマンドリ

米山

天空に炎の舞ひの

覚より池に落ち つ二つ雌花咲きだすグリ 庭に目 白の

咲き初 冬晴れ 小庭べに餌をまきたるも小 を待つ心は久 8 0) し彼岸桜に吹く今朝の 鳥達 風寒 のそ っ つ

しひようひようと桜木は鳴る北風の 、光に透け 動くそ もせずに飛び立ちて行 して我が身がまえぬ 散り初 8

メロ ン蔓先青く水滴光

佐藤せ 河北 梅田 山口 古莊喜佐子 幸

色と形褒められてゐし菱の餅 花菜土手阿蘇の噴煙遥にし 忘れ潮光る岩場の浅き春 風邪によしと滴るとろみ 葱なぎ

> 紫藤 宮川ユキエ 曽我 曽我

菜の花や空缶多し 送る歌口ずさみつつ卒業子 下萌を畑に鋤き込む匂ひか 椿落つきのふ落ちたるす めくり青菜洗ふや水温む

> 財津 原野レイ子

う文芸

のなかなかをはくくき人権のひろばっ

「重い口 ひらこう 友と一緒に」

ゅうで 悠悟(現在中学1年生) 6年 佐田 菊陽西小学校

人権教育・啓発課 ☎(232)2113

「熊本地震で気付かされたこと」



「自分や周りの人を大事に」と話す川野眞隆さん

平成28年4月14日午後9時26分熊本に震度7の激 震が走った。そして、16日午前1時25分に再び震度 7の激震が起こった。ぼくの家は屋根が割れ、壁にひ びが入ったりしたが、今まで通り同じように生活がで きている。車中泊も3日だけで終わることができた。 あれから3カ月が過ぎ、県内では応急仮設住宅が完成 し、入居が始まったというニュースを知って「良かっ たなあ」と思っていた。

しかし、7月9日付の新聞の記事を読んで「良かっ た」と思うのは間違っていた。記事の内容は、応急仮 設住宅に当選しても、車いすの利用者だったので入居 を断念したというものだった。入り口まではスロープ はあったが室内は段差があり、トイレの入り□も狭く て車いすが入らない。脱衣所や洗い場も狭く、介助者 が入れない。風呂場までには11センチと18センチの 段差が二段ある。

確かに高い段差のある部屋は障がい者だけでなく、 高齢者にも住みにくい。震災直後、足が弱っている 85歳の祖父をぼくの家に連れてきて、避難してもらっ ていた。でも、ぼくの家は完全なバリアフリーではな く、手すりも付いていない。そのため、トイレに行く にもとても不便そうだった。だから、余震の不安も あったが、一日だけぼくの家にいて、祖父は自分の家 に帰っていった。不便な避難所よりもプライバシーが 守られる仮設住宅に一日でも早く住んでもらいたいか

武蔵ヶ丘中学校 2年 川野

ら急いで建設してもらえるのはとてもありがたいこと である。しかし、設計の段階でどんな人でも安心して 住める完全バリアフリーの仮設住宅を考えてもらえな かったことが残念でならない。障がいをもっている人 が安全に住むことができる住宅ならもちろん高齢者の 人たちも安全に住むことができる。優先されなければ ならない障がい者や高齢者が後回しにされたように感 じてしまった。

また、7月6日付の発達障がい者への理解が進んで いなくて避難所で辛い思いをされている家族の記事を 読んで、こんなに大変にしている人たちが、自分の知 らないところでたくさんいたことを知った。もし、新 聞に取り上げられなかったら全く知らないでいたこと だろう。思い返せば震災直後にぼくの母が「A君大丈 夫かな。避難所は人が多くて絶対無理だから家に残っ ているかな | と心配していた。A君はぼくの母が支援 していた自閉症の男の子である。ぼくも時々発達障が いの特性を教えてもらっていたので少しは理解できる が、自分の周りにいなければなかなか理解してもらう ことは難しい。熊本地震を経験して本当に多くのこと に気付かされた。学校では「自分や周りの人を大事に すること についてたくさん学んだ。 周りの人という のは家族や友人だけではなく、高齢者や障がいを持っ ている人もはいらないといけない。そして、震災の時 だからこそ特に大事にすべきである。熊本の人たちが 震災前と同じように安全で安心して暮らせる日まで、 たくさんの人に「周りの人を大切にしよう」と伝えて いきたいと心の底から思った。

(先生から)新学期が始まってすぐ、私たちは熊本地震を経 験しました。尊い命が失われたり家が倒壊した りと被害は大きなものでした。今も震災で苦し んでいる人はたくさんいます。震災を経験して 学んだことを忘れず生活していってほしいです。

25 2017.5 広報 きくよう